

海外現地法人の動向（要旨）

＜海外現地法人四半期（平成 23 年 10～12 月期）調査＞

～ 平成 24 年 2 月実施 ～

平成 24 年 3 月 22 日
経 済 産 業 省
大臣官房調査統計 G

★ 売上高 DI 1-3 月期は 8.5、4-6 月期は 21.6 とプラス水準 ★

1. 実績(平成 23 年 10-12 月、前年同期比伸び率)

- (1) 売上高（ドルベース）は、2448 億ドル。前年同期比は 0.5%増と 9 期連続のプラスとなっている。地域別にみると、北米（同 7.6%増）、欧州（同 3.7%増）はプラスとなっているが、アジア（同▲3.9%減）は 9 期ぶりにマイナスに転じた。
- (2) 設備投資額（ドルベース）は、89.6 億ドル。前年同期比は 30.5%増と 7 期連続のプラス。北米（同 69.1%増）、欧州（同 26.0%増）、アジア（同 22.6%増）とプラス。
- (3) 従業者数は、370.9 万人。前年同期比は 4.0%増と 8 期連続のプラス。欧州（同 4.9%増）、北米（同 3.8%増）、アジア（同 3.7%増）とプラス。

2. 見通し(現状判断 DI^(*)：平成 24 年 1-3 月、先行き DI：平成 24 年 4-6 月)

- (1) 売上高 DI は、現状判断及び先行きとも 12 期連続のプラス水準で推移した。現状判断 DI 8.5、先行き DI 21.6 とプラス水準で推移し、前年同期差は、現状判断が 2 期ぶりにプラス、先行きは 3 期連続のプラスとなった。現状判断及び先行き DI を地域別にみると、各地域でプラス水準となっている。しかしアジア地域を細分化すると、中国では現状判断 DI がマイナス水準。
- (2) 設備投資額 DI は、現状判断及び先行きとも 11 期連続プラス水準で推移した。現状判断 DI 9.6、先行き DI 10.5 とプラス水準で推移し、前年同期差は、現状判断 DI ▲0.6 ポイント、先行き DI ▲2.6 ポイントとマイナス。すべての地域で、現状判断 DI、先行き DI ともプラス水準。
- (3) 従業者数 DI は、現状判断及び先行きとも 11 期連続のプラス水準で推移した。現状判断 DI 8.2、先行き DI 10.7 とプラス水準であるが、前年同期差は、現状判断 DI は▲2.0 ポイントと 2 期連続で前年同期を下回り、先行き DI も▲0.5 ポイントと 3 期ぶりにマイナス。

* 1「DI」は、調査実施時点を含む四半期（現状判断）及びその翌四半期（先行き）に関し、それぞれ前四半期と比較した見通しについて「増加」と回答した企業の構成比－「減少」と回答した企業の構成比（%）で算出。

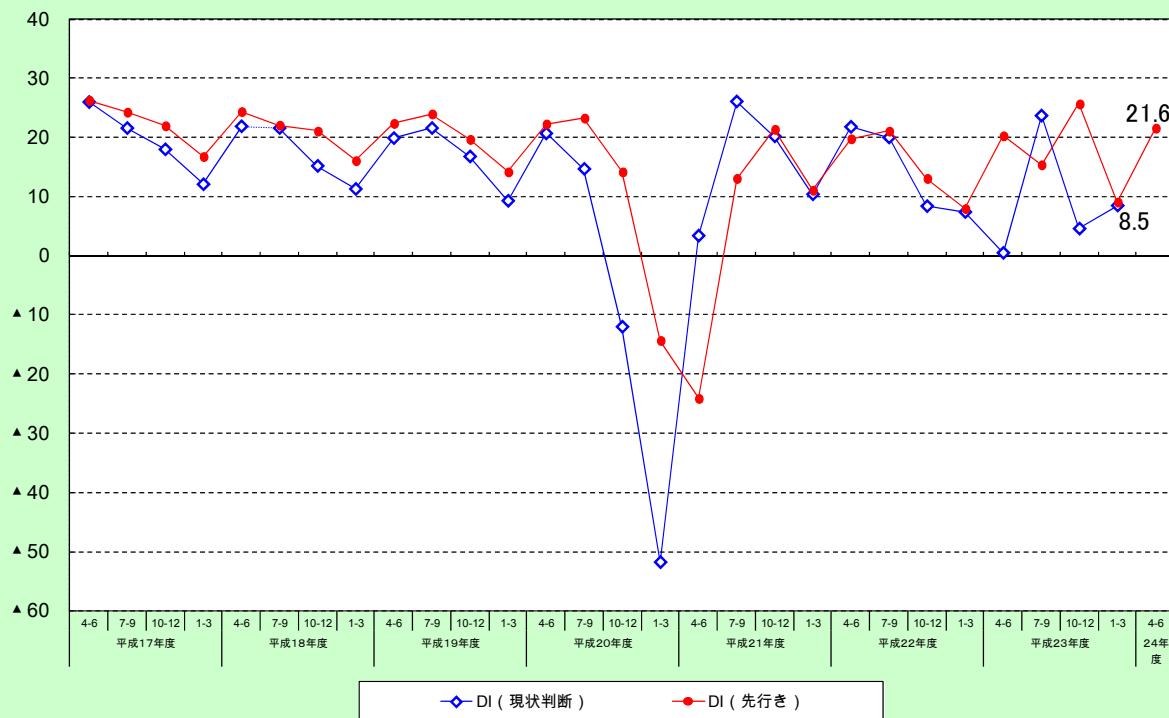
「前年同期差」（現状判断及び先行き）は、当期の DI 値－前年同期の DI 値でそれぞれ算出。

本文中、DI 値は数値のみ（例▲5.5）、DI の前年同期差は数値に「ポイント」を付して（例▲5.5 ポイント）記述。

* 調査対象は、日本企業（金融・保険・不動産を除く全業種で、資本金 1 億円以上、従業者数 50 人以上の日本企業）の直接出資と間接出資を合わせた出資比率が 50%以上、従業者数 50 人以上、製造業、の条件を満たした海外現地法人。

(%ポイント)

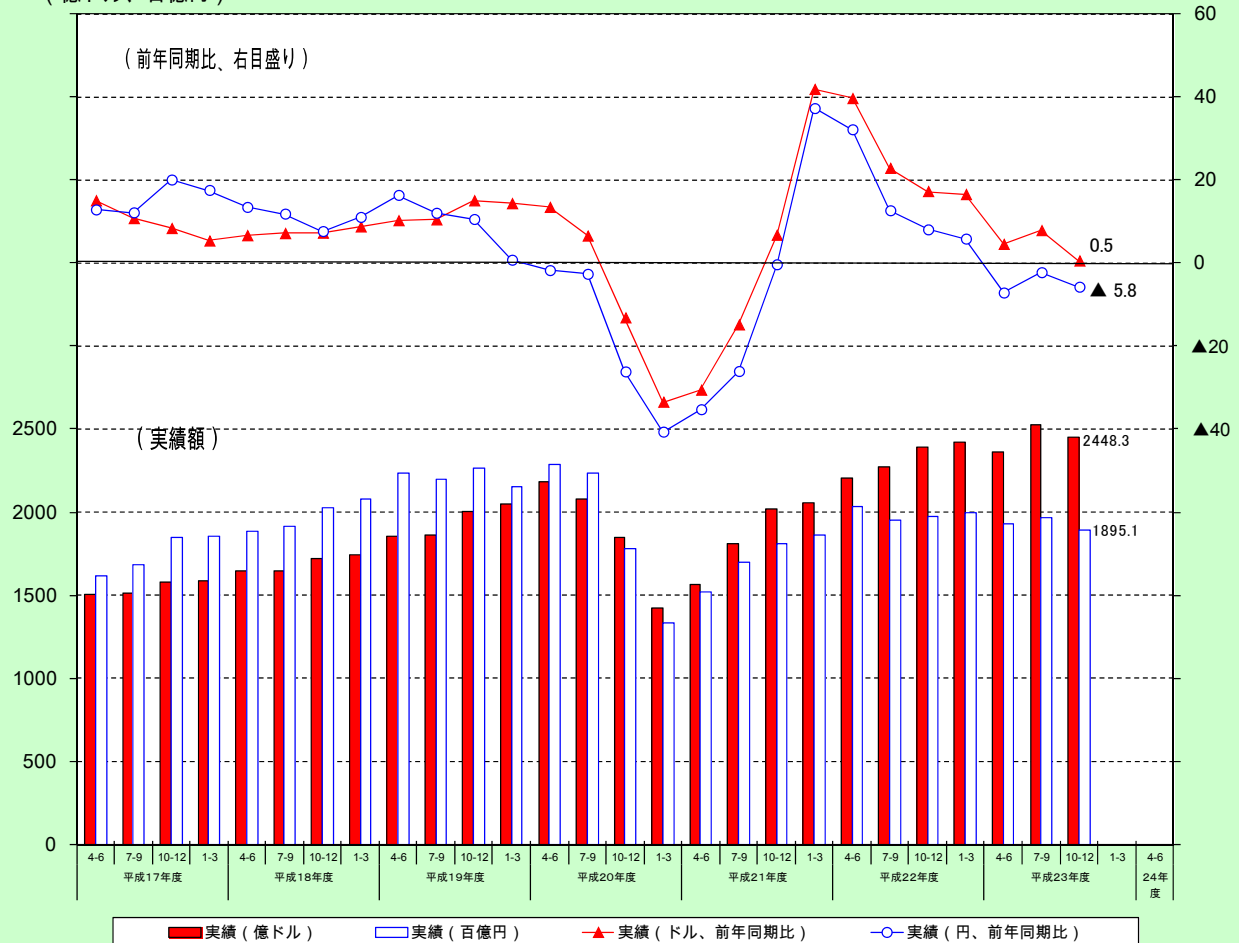
売上高D I



(億ドル、百億円)

売上高(実績及び前年同期比)

(%ポイント)



1. 実績

(1) 売上高実績

○売上高実績（平成 23 年 10-12 月期、ドルベース）は、2448 億ドル。前年同期比^(*) は 0.5%増と 9 期連続のプラス。主要 4 業種^(*)1)は、輸送機械が同 0.8%増と 2 期連続のプラス、はん用等機械が同 ▲5.6%減と 8 期ぶりにマイナス、電気機械が同 ▲1.5%減、化学が同 ▲1.0%減といずれも 9 期ぶりにマイナス。北米は同 7.6%増と 2 期連続のプラス、欧州は同 3.7%増と 8 期連続のプラス、アジアは同 ▲3.9%減と 9 期ぶりのマイナス。

○売上高実績（平成 23 年 10-12 月期、円ベース）は、19.0 兆円。前年同期比は ▲5.8%減と 3 期連続のマイナス。

① 北米 <売上高シェア 28.1%>

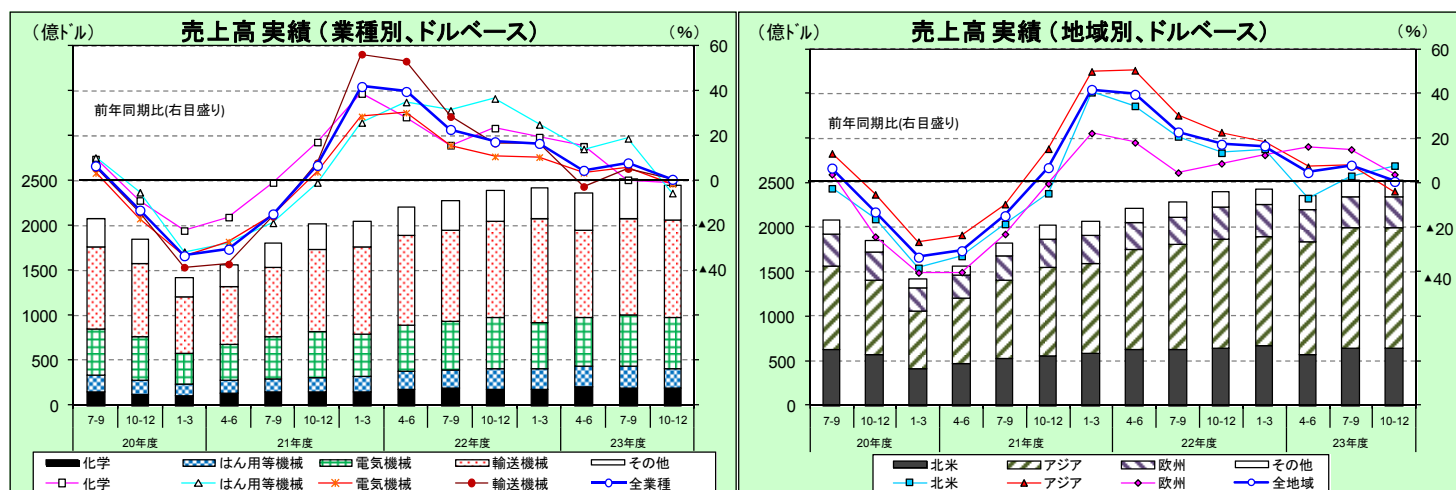
売上高実績（ドルベース）は、687 億ドル。前年同期比は 7.6%増と 2 期連続のプラス。主要 4 業種は、輸送機械が同 9.1%増と 3 期ぶりのプラス、化学が同 6.1%増、はん用等機械が同 2.4%増といずれも 8 期連続のプラス、電気機械は同 ▲0.1%減と 8 期ぶりにマイナス。

② アジア <売上高シェア 49.7%>

売上高実績（ドルベース）は、1217 億ドル。前年同期比は ▲3.9%減と 9 期ぶりのマイナス。主要 4 業種は、はん用等機械が同 ▲9.9%減、輸送機械が同 ▲7.6%減、電気機械が同 ▲0.2%減といずれも 9 期ぶりのマイナス、化学が同 ▲3.8%減と 2 期連続のマイナス。ASEAN4^(*)2)（同 ▲18.3%減）、NIEs3^(*)3)（同 ▲5.1%減）は 9 期ぶりのマイナス、中国^(*)4)（同 10.5%増）は 9 期連続のプラス。

③ 欧州 <売上高シェア 14.8%>

売上高実績（ドルベース）は、361 億ドル。前年同期比は 3.7%増と 8 期連続のプラス。主要 4 業種は、輸送機械が同 15.3%増と 8 期連続のプラス、電気機械が同 ▲12.1%減と 2 期連続のマイナス、はん用等機械が同 ▲2.9%減と 8 期ぶりのマイナス、化学が同 ▲1.9%減と 9 期ぶりのマイナス。



* 前年同期比は、前年度から継続して調査対象となっている現地法人（新規設立企業を含む）のみの集計値から算出しており、実績値から求めた数値とは異なります。実績の詳細は、報告書「海外現地法人の動向」P. 16～P. 27、「統計表」P. 1～P. 20 をご覧ください。

*1 主要4業種：全12業種中、化学、はん用等機械（はん用・生産用・業務用機械）、電気機械、輸送機械の4業種

*2～*4 ASEAN4:インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア NIEs3:シンガポール、大韓民国、台湾 中国:香港含む

(2) 設備投資額(有形固定資産(土地を除く)の当期取得額)実績

- 設備投資額実績（平成 23 年 10-12 月期、ドルベース）は、89.6 億ドル。前年同期比は 30.5%増と 7 期連続のプラス。主要 4 業種は、輸送機械が同 62.1%増、はん用等機械が同 13.1%増といずれも 6 期連続のプラス、化学が同 46.6%増と 3 期連続のプラス、電気機械が同▲9.5%減と 2 期連続のマイナス。地域別にみると、北米、欧州、アジアがともにプラス。
- 設備投資額実績（平成 23 年 10-12 月期、円ベース）は、6934 億円。前年同期比は 22.3%増と 7 期連続のプラス。

① 北米 ＜設備投資額シェア 19.6%＞

設備投資額実績（ドルベース）は、17.6 億ドル。前年同期比は 69.1%増と 4 期連続のプラス。主要 4 業種は、輸送機械が同 70.9%増と 3 期ぶりのプラス、化学が同 44.3%増、はん用等機械が同 43.4%増といずれも 5 期連続のプラス、電気機械が同 4.0%増と 7 期連続のプラス。

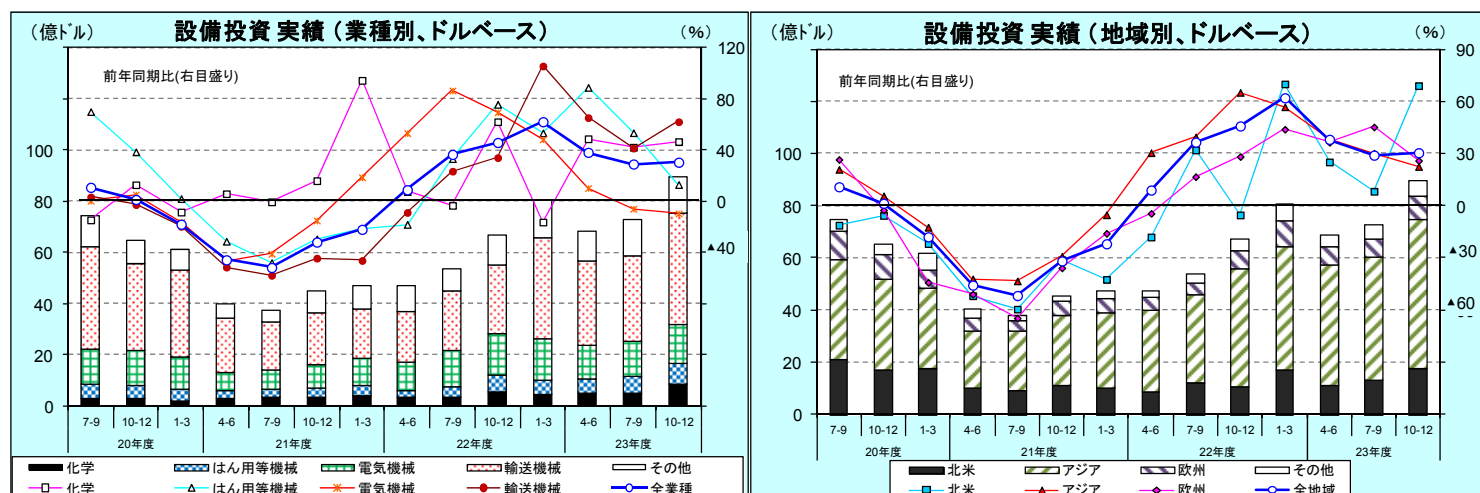
② アジア ＜設備投資額シェア 63.7%＞

設備投資額実績（ドルベース）は、57.1 億ドル。前年同期比は 22.6%増と 7 期連続のプラス。主要 4 業種は、輸送機械が同 74.9%増と 7 期連続のプラス、化学が同 56.7%増と 3 期連続のプラス、はん用等機械が同 28.9%増と 6 期連続のプラス、電気機械は同▲11.5%減と 2 期連続のマイナス。

中国（同 30.7%増）、ASEAN4（同 15.2%増）はプラス、NIEs3（同▲15.8%減）はマイナス。

③ 欧州 ＜設備投資額シェア 10.2%＞

設備投資額実績（ドルベース）は、9.1 億ドル。前年同期比は 26.0%増と 6 期連続のプラス。主要 4 業種は、輸送機械が同 37.9%増と 6 期連続のプラス、化学が同 12.5%増と 3 期連続のプラス、はん用等機械が同▲59.3%減と 3 期ぶりのマイナス、電気機械が同▲23.6%減と 2 期連続のマイナス。



(3) 従業者数実績

○従業者数実績（平成 23 年 12 月末）は、370.9 万人。前年同期比は 4.0%増と 8 期連続のプラス。
主要 4 業種は、輸送機械が同 9.5%増と 8 期連続のプラス、はん用等機械が同 3.6%増と 9 期連続のプラス、化学が同 1.3%増と 12 期連続のプラスとなったほか、電気機械が同 0.3%増と 3 期ぶりのプラス。地域別にみると欧州、北米、アジアがともにプラス。

① 北米 ＜従業者数シェア 11.4%＞

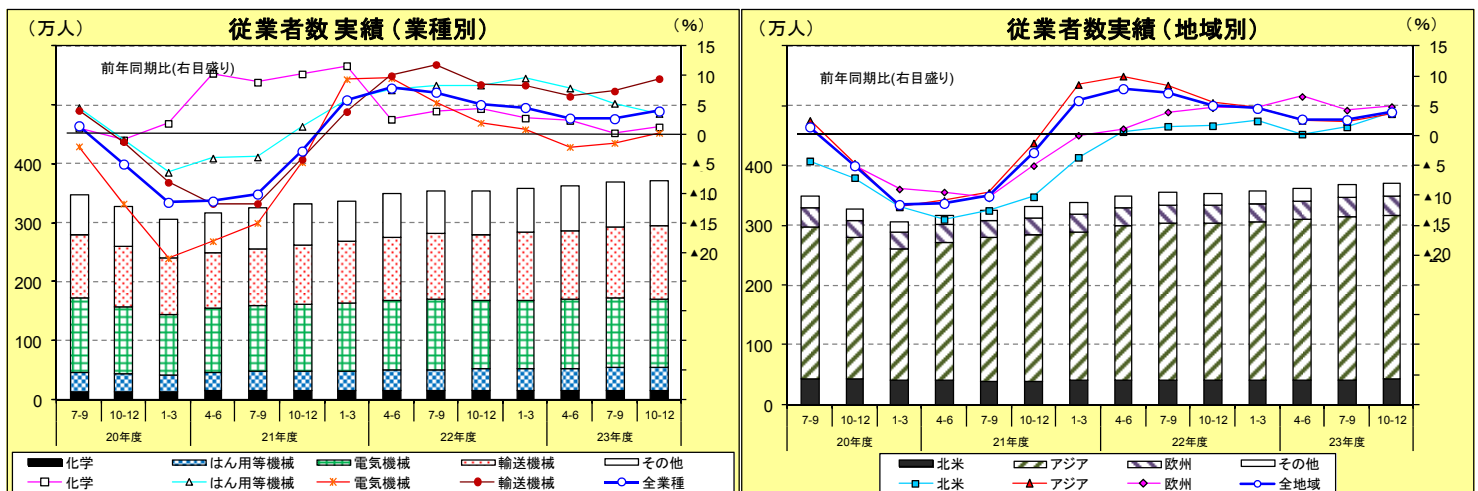
従業者数実績は、42.2 万人。前年同期比は 3.8%増と 7 期連続のプラス。主要 4 業種は、輸送機械が同 6.9%増と 2 期連続のプラス、はん用等機械が同 6.5%増と 5 期連続のプラス、化学が同 3.6%増と 3 期ぶりのプラス、電気機械が同 2.4%増と 3 期連続のプラス。

② アジア ＜従業者数シェア 73.8%＞

従業者数実績は、273.9 万人。前年同期比は 3.7%増と 8 期連続のプラス。主要 4 業種は、輸送機械が同 10.8%増、はん用等機械が同 2.7%増といずれも 9 期連続のプラス、化学が同 1.6%増と 12 期連続のプラス、電気機械が同 0.3%増と 3 期ぶりのプラス。ASEAN4（同 3.6%増）、中国（同 1.0%増）はプラス、NIEs3（同▲0.1%減）はマイナス。

③ 欧州 ＜従業者数シェア 8.7%＞

従業者数実績は、32.4 万人。前年同期比は 4.9%増と 8 期連続のプラス。主要 4 業種は、輸送機械が同 7.8%増と 8 期連続のプラス、はん用等機械が同 7.6%増と 6 期連続のプラス、電気機械が同▲3.7%減と 2 期連続のマイナス、化学が同▲1.4%減と 4 期連続のマイナス。



＜参考＞ 海外経済

世界の景気は、全体として弱い回復となっている。先行きについては、弱い回復が続くと見込まれる。ただし、ヨーロッパ地域の一部の国々における財政の先行き不安の高まりが、金融システムに対する懸念につながっていることや金融資本市場に影響を及ぼしていること等により、景気が下振れるリスクがある。

アメリカでは、景気は緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くと見込まれる。ただし、高い失業率の継続や住宅価格の下落等により、景気が下振れるリスクがある。また、金融資本市場の動向や財政緊縮の影響に留意する必要がある。

アジア地域については、中国では、景気は内需を中心に拡大しているが、拡大テンポがやや緩やかになっている。先行きについては、拡大傾向が続くと見込まれる。ただし、不動産価格や物価の動向に加え、金融資本市場や輸出の動向に留意する必要がある。インドでは、景気の拡大テンポは鈍化している。先行きについては、拡大テンポの鈍化が続くと見込まれる。また、物価上昇によるリスクに加え、金融資本市場の動向に留意する必要がある。その他アジア地域では、景気はこのところ足踏み状態となっている。先行きについては、当面、足踏み状態が続くと見込まれる。また、輸出や金融資本市場の動向に留意する必要がある。

ヨーロッパ地域では、景気は足踏み状態にあり、一部に弱い動きもみられる。ヨーロッパ地域の先行きについては、当面、弱めの動きになるものと見込まれる。また、一部の国々における財政の先行き不安の高まりが、金融システムに対する懸念につながっていることや金融資本市場に影響を及ぼしていることにより、景気が低迷するリスクがある。さらに、各国の財政緊縮による影響や、高い失業率が継続すること等に留意する必要がある。

（「月例経済報告」（平成 24 年 2 月）より抜粋）

2. 見通し

(1) 売上高見通し

○現状判断 DI（平成 24 年 1-3 月期）は、8.5 と 12 期連続プラス水準。前年同期差（平成 23 年 1-3 月期の現状判断 DI に比べ）は、1.1 ポイントと 2 期ぶりにプラスに転じた。主要 4 業種は、輸送機械、化学、はん用等機械がプラス水準、電気機械がマイナス水準。前年同期差は、輸送機械、電気機械がプラス。

地域別にみても、北米、欧州、アジアともにプラス水準。前年同期差もプラス。

○先行き DI（平成 24 年 4-6 月期）は、21.6 と 12 期連続のプラス水準。前年同期差は、1.3 ポイントと 3 期連続のプラス。主要 4 業種は、ともにプラス水準。前年同期差は、輸送機械、化学がプラス、はん用等機械、電気機械がマイナス。

① 北米

現状判断 DI は、23.1 と 3 期連続のプラス水準。前年同期差は、4.6 ポイントのプラス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準。前年同期差では、輸送機械のみがプラス。

先行き DI は、15.3 と 12 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲0.3 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、すべてプラス水準。前年同期差は、はん用等機械がマイナス。

② アジア

現状判断 DI は、5.6 と 12 期連続のプラス水準。前年同期差は、0.4 ポイントのプラス。主要 4 業種は電気機械を除きプラス水準。ASEAN4 (20.0) は 2 期ぶりにプラスに転じたが、中国 (▲6.4) は 4 期ぶりにマイナスに転じ、NIEs3 (4.3) はプラス水準で推移。

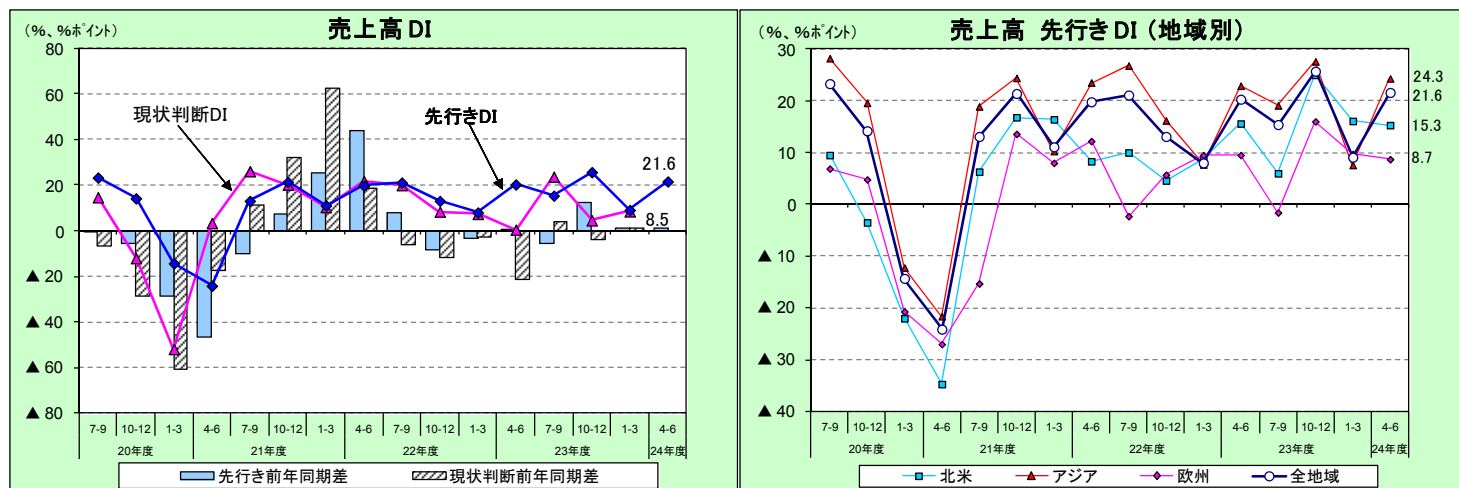
先行き DI は、24.3 と 12 期連続のプラス水準。前年同期差は、1.4 ポイントのプラス。主要 4 業種は、すべてプラス水準。ASEAN4 (31.5)、中国 (19.4)、NIEs3 (19.2) はプラス水準。

洪水被害を受けたタイの現状判断 DI は 31.7、先行き DI は 41.9 とプラス水準。

③ 欧州

現状判断 DI は、10.7 と 6 期連続のプラス水準。前年同期差は、1.8 ポイントのプラス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準。

先行き DI は、8.7 と 3 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲0.8 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準。前年同期差は、輸送機械が 2 期ぶりのプラス、化学が 3 期連続のプラスを示したが、電気機械、はん用等機械がマイナス。



<参考>DIの詳細は、報告書「海外現地法人の動向」P. 4～P. 15、「統計表」P. 21～P. 41 をご覧ください。

(2) 設備投資額(有形固定資産(土地を除く)の当期取得額)見通し

- 現状判断 DI は、9.6 と 11 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲0.6 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、すべてプラス水準で推移。前年同期差は、電気機械、輸送機械でマイナス。すべての地域でプラス水準。
- 先行き DI は、10.5 と 11 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲2.6 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、すべてプラス水準。前年同期差は、はん用等機械のみプラス。すべての地域がプラス水準で推移。

① 北米

現状判断 DI は、11.6 と 11 期連続のプラス水準。前年同期差は、6.9 ポイントと 3 期連続のプラス。主要 4 業種は、すべてプラス水準で推移。

先行き DI は、5.6 と 9 期連続のプラス水準。前年同期差は、0.2 ポイントのプラス。主要 4 業種では、化学を除きプラス水準。前年同期差は、化学、輸送機械がマイナス。

② アジア

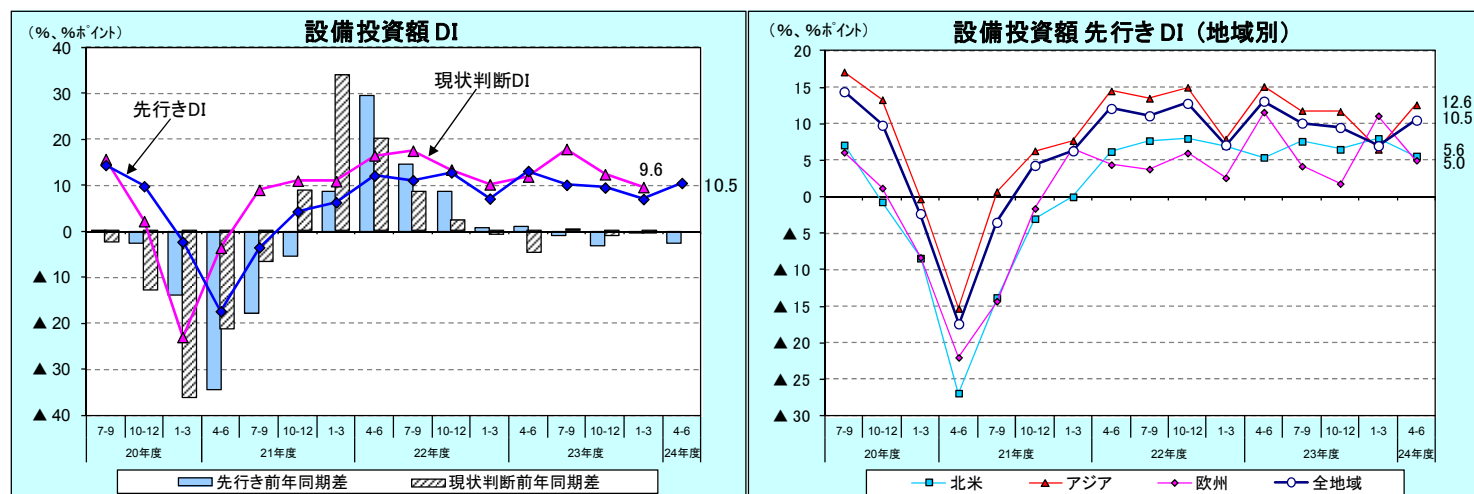
現状判断 DI は、9.6 と 11 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲1.9 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、すべてプラス水準で推移。ASEAN4 (12.9)、中国 (7.9)、NIEs3 (3.8) はプラス水準。

先行き DI は、12.6 と 12 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲2.5 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、すべてプラス水準。前年同期差は、化学のみプラス。ASEAN4 (15.0)、中国 (11.4)、NIEs3 (10.2) はプラス水準。

③ 欧州

現状判断 DI は、8.6 と 11 期連続のプラス。前年同期差は、3.9 ポイントのプラス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準。

先行き DI は、5.0 と 10 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲6.6 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、すべてプラス水準となっているが、前年同期差は輸送機械、電気機械がマイナス。



(3) 従業者数見通し

- 現状判断 DI は、8.2 と 11 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲2.0 ポイントと 2 期連続のマイナス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準となり、前年同期差は電気機械が 6 期連続でマイナス、はん用等機械が 2 期連続のマイナス、化学が 2 期ぶりにマイナスになっており、輸送機械が 3 期連続のプラスとなった。すべての地域でプラス水準。
- 先行き DI は、10.7 と 11 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲0.5 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、すべてプラス水準となり、前年同期差は輸送機械のみがプラス。すべての地域でプラス水準。

① 北米

現状判断 DI は、14.5 と 9 期連続のプラス水準。前年同期差は、5.1 ポイントのプラス。主要 4 業種は、すべてプラス水準。

先行き DI は、11.7 と 7 期連続のプラス水準。前年同期差は、4.4 ポイントのプラス。主要 4 業種は、すべてプラス水準。前年同期差は、はん用等機械、化学がマイナス。

② アジア

現状判断 DI は、8.1 と 11 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲3.8 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準。前年同期差は、輸送機械のみプラス。ASEAN4 (12.8)、中国 (5.5)、NIEs3 (4.5) はプラス水準。

先行き DI は、11.8 と 11 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲1.4 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、すべてプラス水準。前年同期差は、輸送機械のみプラス。ASEAN4 (13.2)、中国 (11.6)、NIEs3 (5.0) はプラス水準。

③ 欧州

現状判断 DI は、2.3 と 6 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲0.9 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、輸送機械のみマイナス水準。

先行き DI は、4.7 と 5 期連続のプラス水準。前年同期差は、0.7 ポイントのプラス。主要 4 業種は、輸送機械のみマイナス水準。前年同期差は電気機械のみプラス。

